

# 江戸期のかまど跡12基

## 久留米の善導寺で出土



計12基の竈跡(手前や左奥の円形部分)が出土した善導寺の発掘現場  
福岡県久留米市善導寺町飯田

同寺は浄土宗の九州地区の本山と位置づけられており、発掘調査は国の重要文化財指定建造物の修復作業に伴い実施。竈跡は、食堂に当たる大庫裏から見つかった。十二基の竈跡はそれぞれ円形で、直径約七十五センチの五基▽同約一メートルの二基▽同約八十センチの五基の三群に分類できるという。

文獻で、同寺の大庫裏は一六二五年、八一年、一七四九年に再建されたことが分かっており、市教委は位置関係などから、各群を一六二五年以前▽一六二五―八一年▽

福岡県久留米市教委は二十四日、同市善導寺町飯田の善導寺で、江戸時代初期前後から中期にかけての竈跡が十二基出土したと発表した。時期が進むと竈は大型化しており、市教委は「戦国時代には襲撃を受けていた寺院が、江戸幕府の安定に伴い、隆盛を迎えた様子がうかがえる」と話している。

# 後の時期ほど大型化

## 幕府の安定に伴い隆盛か

一七四八年に起きた大災直後の時期のもの推定

定。「時代的に後となる二群は大型化し、寺の隆盛の表れ」とみている。善導寺は、戦国時代にはたびたび襲撃されていたが、江戸幕府のキリシタン排除政策に伴う檀家制度の確立に伴い、安定文化財保護課「0942(30)9225」。

# 元 中国兵に65年ぶり再



宮崎の主婦・袴さんが訪中  
「ありがとうと言いたい」

日中戦争のさなか、中国人兵士に救出された宮崎県都城市の主婦・袴美穂さん(65)だが、命の恩人である楊仲山さん(65)天津市在住と六十五年ぶりの再会を果たすため、二十四日、福岡空港から現地に向かった。写真。